

アナストロゾールまたは レトロゾールを 服用される患者さんへ

安心してホルモン療法を続けていただくために



監修

川崎医科大学附属病院 病院長
日本乳癌学会名誉理事長

園尾 博司 先生

はじめに

乳がんは女性に最も多いがんですが、その治療は目覚ましく進歩しています。例えば、約7割の乳がん患者さんは、女性ホルモンの影響を強く受けるタイプで、このような乳がんに対してはホルモン療法がよく効くことが分かっています。

本冊子ではホルモン療法剤『アナストロゾール』『レトロゾール』の治療を受ける患者さんに、お薬の使用目的や服用方法、治療中の注意点などを分かりやすく解説しています。不安な点やもっとよく知りたいことなどがございましたら、遠慮なく主治医や薬剤師、看護師にご相談ください。

川崎医科大学附属病院 病院長
日本乳癌学会名誉理事長 園尾 博司

目次

はじめに	1
1. 乳がんとホルモン療法について	
乳がんは、どこにできるのでしょうか？	2
乳がんは、どのような病気なのでしょうか？	3
乳がん治療には、どういった方法があるのでしょうか？	5
ホルモン療法は、どういった目的で選ばれるのでしょうか？	7
ホルモン療法剤は、どんな働きのあるお薬なのでしょうか？	9
2. ホルモン療法剤『アナストロゾール』と『レトロゾール』について	
アナストロゾールとレトロゾールは、 閉経後の患者さんに用いられる「アロマターゼ阻害剤」です。	11
アナストロゾールとレトロゾールについて 副作用(アナストロゾール、レトロゾール)	
服用中に気をつけなければならないこと	13
ホルモン療法中のアドバイス	14
セルフチェック	15
治療・体調チェックシート	16

乳がんは、 どこにできるのでしょうか？

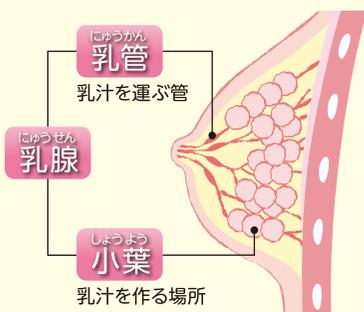
乳がんは乳房の中にある「乳管」にできるがんです。

乳房は、乳汁をつくる乳腺小葉や乳汁を運ぶ乳管から成ります。

乳がんは、乳管(小葉内の乳管を含む)にできるがんです。

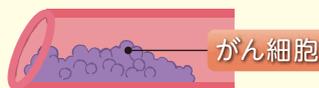
がん細胞を放置すれば少しずつ増殖し、乳管を破って周囲の組織に広がっていきます。乳管内や小葉内にとどまっているがんを「非浸潤がん」、乳管や小葉の外まで広がっているがんを「浸潤がん」といいます。

■乳房の組織



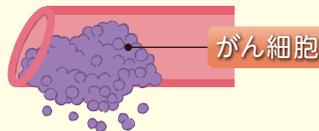
■非浸潤がん

乳管内や小葉内にとどまっているがん



■浸潤がん

乳管や小葉の外まで広がっているがん



乳がんの症状

乳がんでは、次のような症状が現れます。

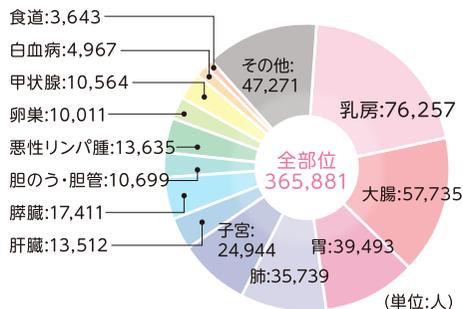
- 乳房にできる無痛性の硬いしこり・くぼみ・エクボのようなひきつれ
- 皮膚の変化(乳房が赤くなる、乳首に湿疹やただれができる)
- 乳房の腫れ・熱感
- 血性(血の混じった、あるいは茶色)の分泌液が出る、腋の下にしこりができる、など

乳がんは、どのような病気なので

乳がんは日本人女性が最もかかりやすいがんです。

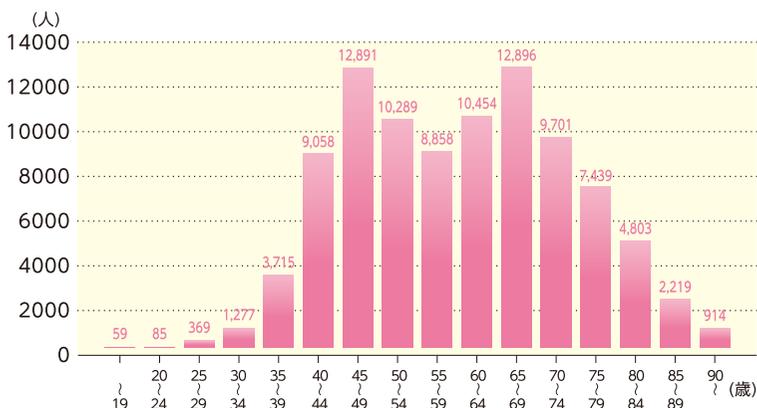
乳がんの患者数は増加し続けており、とくに2000年以降は急増し、10年余で約2倍になっています。また、女性のがん部位別患者数をみると乳がんは20年前からずっと一位の座を保っています。一般的に、がんにかかる人の割合は年齢とともに上昇しますが、乳がんは40～60歳代にピークがあり、その後は次第に減少します。

■ 部位別がん患者数(女性, 2014年)



資料:国立がん研究センターがん対策情報センター「がん登録・統計」

■ 年齢別乳がん発症患者数(2016年)



日本乳癌学会:全国乳がん患者登録調査報告(2016年次症例)

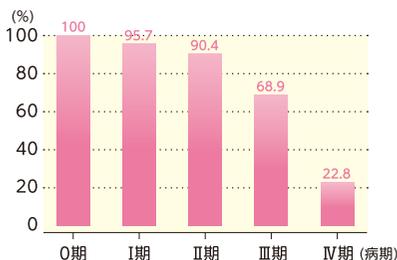
しょうか？

乳がんは早期治療でより高い治癒率が期待できます。

乳がんは早期に発見し、適切な治療を施すことで治癒率は目覚ましく向上しています。0期・I期では95%以上、II期では90%の患者さんが治癒するという成績ができています(病期の詳細はp.6参照)。

■乳がん症例の10年生存率

(川崎医科大学乳腺甲状腺外科)



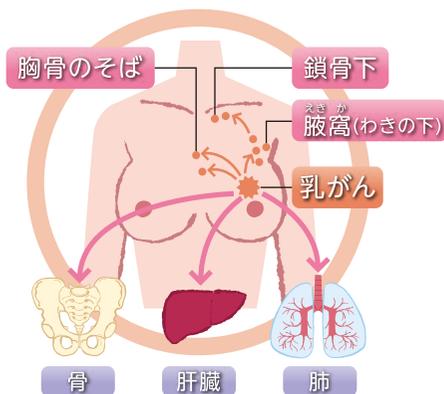
川崎医科大学乳腺甲状腺外科2001年～ 計2,908例

0期 n=325、I期 n=1,299、II期 n=948、III期 n=244、IV期 n=92

早期がんと進行・転移乳がんの病態と予後

乳がん(浸潤がん)はある程度進行すると、症状がなくても周囲組織や近くのリンパ節*まで広がっている場合があります。さらに進行すると血管やリンパ管を通じて他の臓器まで転移*します(図参照)。乳がんが転移や進行してからでは、完治する可能性が限られてきます。しかし、早期であれば手術ができ、乳がんの性質に応じて術後の薬を使い分けることで完治する可能性が高くなります。

■乳房周辺のリンパ節



リンパ節：リンパ管の中に入った細菌や老廃物を捕らえてろ過している部位のことです。全身の組織の隙間に存在しているリンパ管の中には、老廃物の回収や免疫機能をもつリンパ液が流れています。

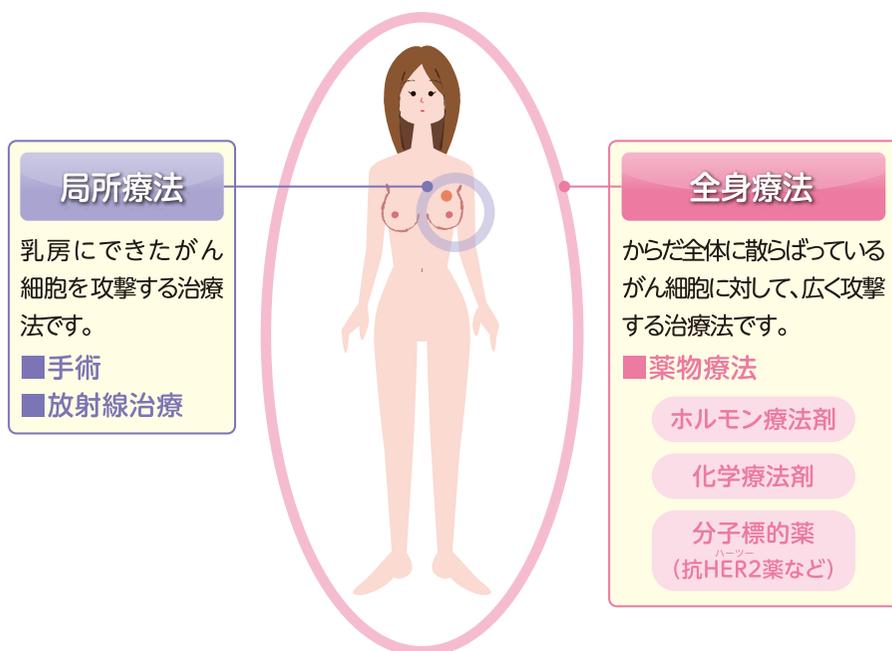
転移：がんが進行した結果、がん細胞がリンパ管内に入って近くのリンパ節に広がったり、血管内に入って遠くの臓器に移ることを言います。

乳がん治療には、こういった方法

局所療法(手術、放射線治療)と全身療法(薬物療法)があります。

乳がん治療には、手術、放射線治療*、薬物療法(ホルモン療法、化学療法、分子標的治療*など)があります。それぞれの治療を単独で行う場合と、複数の治療を組み合わせる場合があります。

■局所療法と全身療法



放射線治療：X線や電子線を体の外から照射し、がんを小さくする治療です。乳がんでは術後の乳房や腋窩の再発予防のために行われることが多く、その他、軟部組織や骨転移の治療のために行われることもあります。

分子標的治療：がん細胞の増殖にかかわる特定の物質を狙って攻撃する薬(分子標的薬)を用います。正常な細胞には影響を与えず、副作用を抑えることが期待できます。

があるのでしょうか？

それぞれの患者さんに適した治療法が選ばれます。

乳がん治療は、個々の患者さんのがんの大きさや種類、進行程度などから判断して治療法や使用薬剤が選ばれます。乳がん患者さんの約70%を占めるのが「ホルモン受容体陽性の乳がん*」と呼ばれるタイプで、女性ホルモン(エストロゲン)と結合することで増殖するがんです。また約20%を占めるのが^{ハーツ-}HER2*と呼ばれるたんぱく質がかかわって増殖するがんです。

■乳がんの病期

病期	進 行					
	0期	I期	II期 a期 b期	III期 a期 b期 c期	IV期	
がんの大きさ	乳管内にとどまる	2cm以下	2.1~5cm	5.1cm以上	大きさ関係なし	肺、肝臓、骨、脳などに転移
リンパ節転移	×	×	○と×	○と×	○	○
種類	非浸潤がん	浸潤がん(早期がん)	浸潤がん	浸潤がん(局所進行がん)	浸潤がん(遠隔転移がん)	

リンパ節転移あり=○、リンパ節転移なし=×

■治療法を選ぶ際に必要になる要素

乳がん患者さんの約70%は、ホルモン受容体がある(陽性)

がん細胞
(悪性度や大きさ)

ホルモン受容体
(あり・なし)

リンパ節転移
(あり・なし)

非浸潤がん・
浸潤がん

BRCA
(あり・なし)

^{ハーツ-}HER2
(あり・なし)

ホルモン受容体陽性の乳がん：エストロゲンが鍵のように、がん細胞の鍵穴(受容体)に結合して増殖を起こすがんです。

HER2：乳がんの細胞増殖にかかわるたんぱく質で、HER2の有無によって治療法が異なります。

BRCA：がん抑制遺伝子で、BRCA遺伝子の変異の有無によって治療法が異なります。

ホルモン療法は、こういった目的

ホルモン療法はエストロゲンの働きを抑えることでがんの増殖を抑え、再発*や転移を防ぎます。

ホルモン受容体陽性の乳がんは、体内のエストロゲンが減ったり、働きが弱まったりすると、増殖しにくくなります。エストロゲンの働きをお薬で抑える治療法がホルモン療法です。

■乳がん診療の流れとホルモン療法

乳がんの診断

がん転移がない場合。

術前治療

化学療法剤

HER2陽性の場合

分子標的薬

閉経後の患者さんに対してホルモン療法が選ばれることもある。

■目的

- ①がん病巣を小さくする。
- ②薬の効果を判定する。

手術

乳房温存術
乳房切除術

乳房再建術

比較的早期の乳がん(リンパ節転移なし、または転移がわずか)が対象となる。

■^{えきか}腋窩リンパ節切除

- ①センチネルリンパ節生検: がんが最初に入るリンパ節をみつけて切除し、転移がない場合はそれ以上切除しない。
- ②リンパ節郭清:^{かくせい}センチネルリンパ節に転移がある場合はリンパ節を周囲の脂肪とともに広範囲に切除する。

で選ばれるのでしょうか？

ホルモン療法はホルモン受容体陽性の乳がん患者さんを対象に行われ、術後に長期間治療を続けることでがん細胞の増殖を抑え、再発*・転移を予防する効果があります。また、進行乳がんや転移した乳がんの患者さんに投与すると、がんの縮小や症状の緩和が期待できます。

再発：治療によって一度消失したがんが、再び現れること。手術した場所やその周辺だけではなく、乳房から離れた場所に再発するケースもあります。

放射線治療

術後治療

化学療法剤

HER2陽性の場合

分子標的薬

ホルモン受容体
陽性の場合

ホルモン療法剤

ホルモン療法は全身のがん細胞に対して行う薬物療法のひとつです。

ホルモン受容体のある乳がんの場合、がん細胞の増殖は女性ホルモン(エストロゲン)による刺激で起こります。ホルモン療法は、エストロゲンの分泌や働きを妨げることでがん細胞の増殖を抑制する治療法です。

■目的

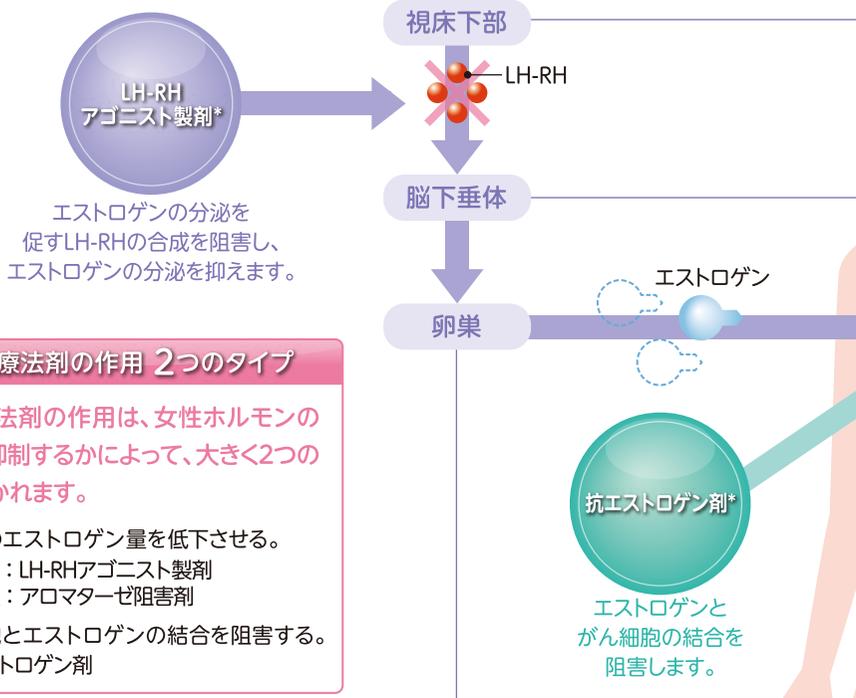
微小ながん細胞の増殖を抑制してがんの再発・転移を予防します。

ホルモン療法剤は、どんな働きのの

エストロゲンの合成を抑制したり、エストロゲンとがんの受容体の結合を阻害する働きがあります。

閉経前

エストロゲンは主に卵巣から分泌されます。



ホルモン療法剤の作用 2つのタイプ

ホルモン療法剤の作用は、女性ホルモンの働きをどう抑制するかによって、大きく2つのタイプに分かれます。

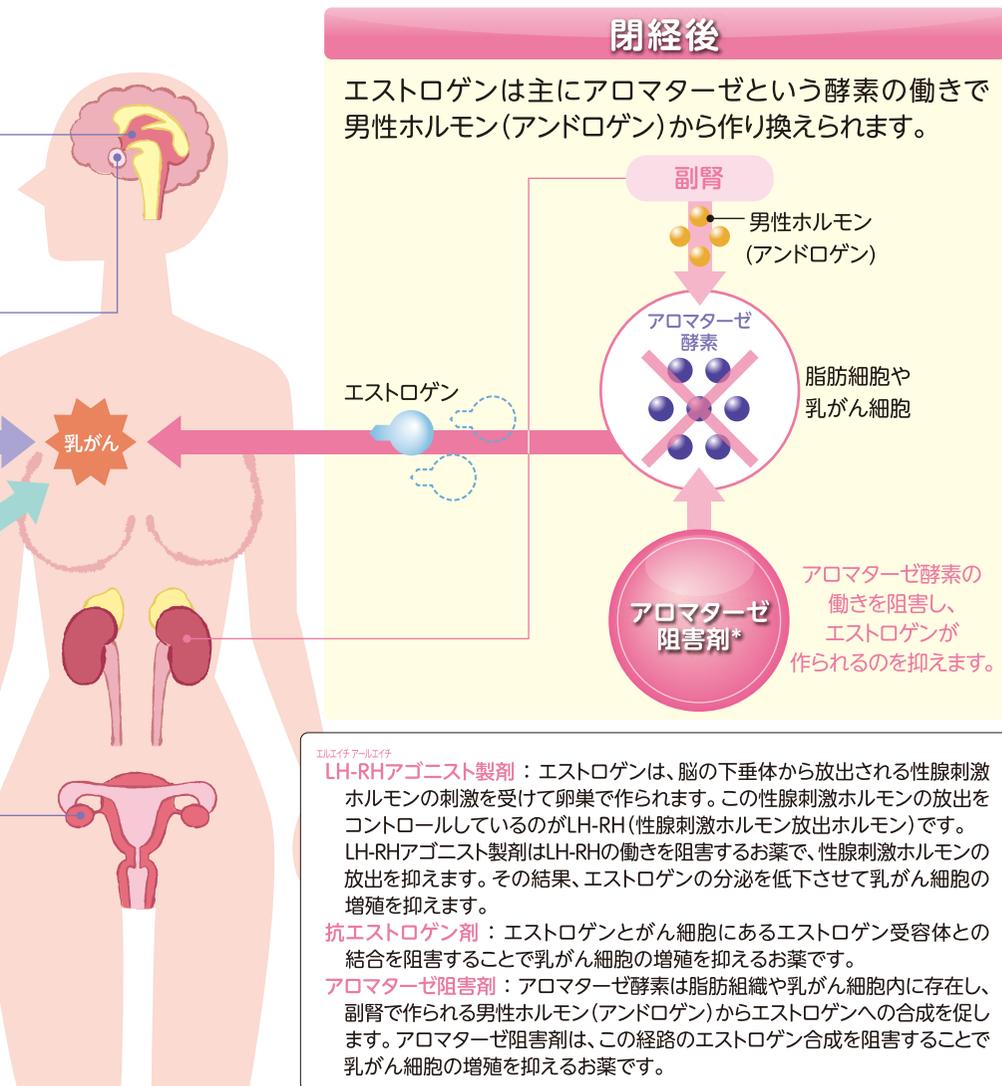
- ① 血液中のエストロゲン量を低下させる。
 - 閉経前：LH-RHアゴニスト製剤
 - 閉経後：アロマターゼ阻害剤
- ② がん細胞とエストロゲンの結合を阻害する。
 - 抗エストロゲン剤

乳がん細胞の増殖イメージ



あるお薬なののでしょうか？

ホルモン療法剤は、体内でのエストロゲンの合成を抑える作用や、エストロゲンとがんの受容体の結合を阻害する作用によって、がん細胞の増殖を抑制します。エストロゲンは閉経前と閉経後とでは作られる経路が異なるため、薬はそれぞれに合わせて選ばれます。



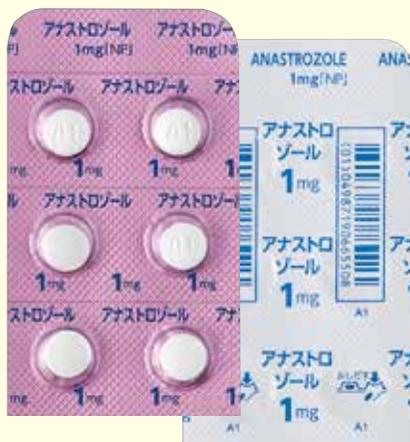
アナストロゾールとレトロゾールは、閉経後の患者さんに用いられる「アロ

アナストロゾールとレトロゾールについて

服用しているお薬にチェックを入れてください。

アナストロゾール錠1mg

通常、1日1回、1錠(1mg)を毎日服用します。



錠剤の形状



表面 側面 裏面

写真はアナストロゾール錠1mg[NP] (実物大)
製造販売：ニプロ株式会社

レトロゾール錠2.5mg

通常、1日1回、1錠(2.5mg)を毎日服用します。



錠剤の形状



表面 側面 裏面

写真はレトロゾール錠2.5mg[ニプロ] (実物大)
製造販売：ニプロ株式会社

服用方法 | コップ1杯程度の水またはぬるま湯で服用してください。

服用のタイミング | 1日のうち、いつ服用しても構いません。
飲み忘れ予防のため、毎日の服用時間を決めるとよいでしょう。

服用期間 | 通常、5年間
(患者さんごとに異なりますので、必ず主治医の指示にしたがってください。)

保管上の注意 お薬は光が当たらない涼しい場所、小児の手が届かない場所に保管してください。

マターゼ阻害剤」です。

副作用(アナストロゾール、レトロゾール)

一般にホルモン療法は、抗がん剤に比べて副作用が軽度ですが、全くないわけではありません。アナストロゾールとレトロゾールの服用中には、以下の副作用が現れることがあります。

関節痛

手、肩、ひじ、ひざなどからだの節々に痛みを感じる。

骨粗鬆症、骨折

骨密度が低下し、骨折しやすくなる。

ほてり

からだや顔が通常よりも熱く感じられ、時には大量に汗をかく。



特に注意すべき副作用(頻度不明)

アナストロゾール

皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)
全身の皮膚症状(腫れ、湿疹、ただれ、水ぶくれなど)、口や鼻の粘膜がただれる、目の痛み・充血、発熱 など

アナフィラキシー、血管浮腫、じんましん
全身の腫れ(顔・くちびる・舌・足・陰部)、物が飲み込みにくい、息ができない、発疹 など

肝機能障害、黄疸
発熱、体がだるい、かゆみ、吐き気、食欲がない、皮膚や白目が黄色くなる など

間質性肺炎
息切れ、息苦しさ、空咳、発熱 など

血栓塞栓症
局所の痛み・腫れ、胸の痛み、呼吸困難 など

レトロゾール

中毒性表皮壊死症(Toxic Epidermal Necrolysis: TEN)、多形紅斑
火傷のように全身の皮膚が赤くなり、擦るとはがれる(目・くちびる・陰部などの粘膜を含む)、発熱 など

肝機能障害、黄疸
発熱、体がだるい、かゆみ、吐き気、食欲がない、皮膚や白目が黄色くなる など

血栓症、塞栓症
局所の痛み・腫れ、胸の痛み、呼吸困難 など

心不全、狭心症
胸の痛み・圧迫感、息苦しさ など

上記以外にも気になる症状が現れた場合は、主治医や薬剤師、看護師に相談してください。

服用中に気をつけなければならないこと

Q 服用するのを忘れてしまった場合はどうすればよいですか？

お薬を服用していないことに気づいた場合、同日中であれば気づいた時点で服用してください。気づいたのが翌日の場合は、飲み忘れ分は服用せずに、その日の分(1回分)のみを服用してください。

Q 定められた量より多く服用してしまった場合はどうすればよいですか？

まちがえて多く服用してしまった時は、至急、医療スタッフにご相談ください。

Q 他のお薬と一緒に飲んでも問題はありますか？

他のお薬と一緒に服用すると、お薬によっては効き目が強くなりすぎたり逆に弱まったりする場合があります。アナストロゾールやレトロゾール以外のお薬(市販薬、サプリメントを含む)を服用している方は、治療を始める前に医師や医療スタッフにそのことを知らせてください。また、他の診療科を受診する場合は、アナストロゾールやレトロゾールを服用していることを受診先の医師や医療スタッフに忘れず知らせてください。

Q 服用期間中にはどういったことに気をつけるべきでしょうか？

アナストロゾールやレトロゾールの服用後に、眠気におそわれる、意識がぼんやりするといった状態になる場合があります。服用後に自動車や機械の操作などを行う場合には、十分に注意をしてください。

ホルモン療法中のアドバイス

日常生活

症状や副作用のつらさからくる不安や、早く治したいというあせりなどで気持ちが不安定になることがあります。散歩や軽い運動などで上手に気分転換をして、あせらず、心身の健康を保つようにしてください。お酒は控えめに、禁煙を心がけましょう。

骨粗鬆症や骨折

骨の組成にかかわるカルシウムや、カルシウムの吸収を助けるビタミンDを多く含む食事を心がけましょう。カルシウムを多く含む食品は、ひじき、こまつな、小魚など。またビタミンDを多く含む食品は、しらす干し、エリンギ、干しいたけなどです。

ほてり

ほてり対策は、服装面での工夫が手軽で効果的です。温度調節が可能なノースリーブとカーディガンの組合せなどを選びましょう。吸湿性・速乾性にすぐれた素材の衣類を選ぶことも大切です。

関節痛

ストレッチや入浴などで血流を促すことで関節の痛みを和らげることができます。関節の痛みを予防するには、長時間同じ姿勢を続けないようにすること、また関節に負担がかかるような体重増加を避けることが大切です。痛みがひどい場合は主治医や薬剤師、看護師に相談してください。



肥満

ホルモン療法中に体重がふえてしまう人がいます。日常生活に気を配り、肥満になるのを避けましょう。カロリーと脂肪を抑えた食事を工夫し、ウォーキングやラジオ体操などの適度な有酸素運動でカロリー消費を心がけましょう。

セルフチェック

自己検診と定期検査のすすめ

乳がんの手術を受けた患者さんの中には、再発するケースもあります。再発や転移した乳がんを早く見つけるために、自己検診と年1回のマンモグラフィ検査*を続けましょう。

自己検診 ～視診と触診で左右両方の乳房をチェック～

■視診：見てチェック

鏡の前で腕を上げて、いろいろな角度から乳房の形を見ましょう。普段とは異なるくぼみやひきつれ（P2：乳がんの症状）、左右の乳房で違いがないかをチェックします。



■触診：触ってチェック

3本の指（人差し指、中指、薬指）をそろえ、指の腹を使って2～3cmの小さな円を描くようにして、乳房全体をくまなくなでるように触り、しこりや違和感がないかをチェックしましょう。

また、仰向けに寝て、同じ手順でしこりや違和感がないかもチェックします。最後に乳首をしぼり、血性（血が混じる、あるいは茶色）の分泌液がないかもチェックしましょう。

マンモグラフィ検査：乳がんを見つけるために行われる、乳腺専用のレントゲン検査です。乳房をレントゲン撮影し、触っても分からないような小さな乳がんも発見できます。

治療・体調チェックシート

アナストロゾールやレトロゾールの治療中は、1週間に1度、症状の程度をチェックして体調の変化を記録しましょう。診察を受ける際は、この記録を主治医や薬剤師、看護師に見せて、気になることがあれば相談するようにしましょう。

記入例

日付	1週目 (0/8)	2週目 (0/15)	
次の症状の程度を、「なし」、「弱(少し)」			
一週間の体調	顔がほてる	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強
	汗をかきやすい	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強
	腰や手足が冷えやすい	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強
	息切れ、動悸がする	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強
	寝つきが悪い、眠りが浅い	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強
	怒りやすく、すぐにイライラする	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強
	くよくよしたり、憂鬱になることがある	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強
	頭痛、めまい、吐き気がよくある	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強
	疲れやすい	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強
	肩こり、腰痛、手足の痛みがある	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強
	他に気になったこと・困ったこと (自由記入)		イライラしてつい食べ過ぎてしまう
併用薬 (お薬の名前)			

記録は1週間に1度、継続的に行いましょう。

体調の変化など、自由に記載しましょう。

市販薬の記録も残すようにしましょう。

日付		週目 /	週目 /	週目 /
次の症状の程度を、「なし」、「弱(少し)」、「中(中程度)」				
一週間の体調	顔がほてる	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強
	汗をかきやすい	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強
	腰や手足が冷えやすい	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強
	息切れ、動悸がする	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強
	寝つきが悪い、眠りが浅い	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強
	怒りやすく、すぐにイライラする	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強
	くよくよしたり、憂鬱になることがある	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強
	頭痛、めまい、吐き気がよくある	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強
	疲れやすい	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強
	肩こり、腰痛、手足の痛みがある	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強
他に気になったこと・困ったこと (自由記入)				
併用薬 (お薬の名前)				

週目 /	週目 /	週目 /	週目 /
「強(強い)」のうち該当するものに○をつけてください。			
なし・弱・中・強	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強
なし・弱・中・強	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強
なし・弱・中・強	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強
なし・弱・中・強	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強
なし・弱・中・強	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強
なし・弱・中・強	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強
なし・弱・中・強	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強
なし・弱・中・強	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強
なし・弱・中・強	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強
なし・弱・中・強	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強	なし・弱・中・強

※コピーして記録を続けてください。

気軽に声をかけてください

乳がんのホルモン療法は長期にわたります。わからないことや不安なことがあればどんなことでも気軽に主治医や薬剤師、看護師などに相談してください。貴女の治療に関わる医療スタッフとともに、あせらず気長に取り組んでいきましょう。



かかりつけの施設情報

施設名

担当医師名

TEL